夏の甲子園と時を同じくして開幕した「おれたちの大会」は準々決勝を迎えていた。優勝候補が初戦敗退してしまい、盛り上がりに欠ける甲子園に対し、当初は注目度の低かったこの大会だが、ジワジワと注目を集め、テレビ局や新聞社も動き出したらしい。

扶桑は、準々決勝の vs 秋田聖大付に順当勝ちを収めた。水浴びをしている扶桑のところへ、NZ チームのジョンがひょっこりやってきた！NZ もシーズン中なのだが、練習中に肩を骨折して今年はもうお休みなのだという。ジョンと話す叶。ジョンは、留学中の岡部と仲がよかったため、日本語も結構話せる。岡部について語るジョン。
ジョン「岡部の夢は、日本代表の SO になって、オールブラックスに勝つことネ」
岡部の壮大すぎる夢に圧倒される叶であった。
ところでこのジョンだが、微妙に語尾だけカタコトを表す接尾語がつくので、今後かなりウザい解説者として君臨することになることを先に述べておこう。
※例：「足のある WTB ならそのままトライできたネ」「スコアの 3 分の 2 は岡部一人であげたものネ」「扶桑のバックスの動きが悪すぎるヨ」

同じく準々決勝の試合、岡部のいる久世沢 vs 皇嘉を観にいく二人。その試合を観て、ジョンは「岡部は全力を出し切っていない」と指摘する。周囲のレベルが低くて、岡部の能力を最大限に発揮できていないというのだ。だが、叶はそれが気にくわなかったらしい。
叶「確かに自分からみりゃあ、周りのメンバーはヘタクソに見えるだろうさ･･･だけど、どんなにヘタクソでも自分のチームメートを信頼して指揮するのが SO だろ･･･」
試合に負けるたびに、「ラグビーは一人じゃ勝てない」という旨の発言をする岡部に対する不満を吐露した。
叶「**あいつは･･･SO 失格だ！！**」
仮にも、留学生という立場でありながら NZ 高校選抜の SO を務めるほどの実力者である岡部に対し、メンチを切った。

その後のチームミーティングで、叶は仲間たちに「明日は SO である自分に絶対服従すること」を確認し、さらに「**明日の試合には、SO として俺の全てをかけ、もし負けたらラグビーを辞める**」とまで宣言した。本当にハードルを上げるのが好きな M 男である。

さて翌日、準決勝の久世沢 vs 扶桑の試合が始まった。岡部は NZ 戦から登場しているが、本格的な対決はこれが初めてである。作者のストーリーテリングが秀逸である証拠だ。

叶は、異常なまでの岡部徹底マークを作戦として採用した。**叶や伊達を含めて、3 人で岡部 1 人をマークしたのだ。**
だが、岡部は余っているところへパスすることなく、個人プレーで真っ向勝負を挑む。本

場仕込みのステップで軽く３人を抜き去り、先制トライ。
叶「岡部･･･俺達はあえてお前一人をマークしているんだ･･･他のメンバーにパスされたらもっと簡単にトライされるだろうよ･･･しかし、それはお前が自分のチームメートを信頼していればの話だっ！」
だが、岡部は根本的にレベルが違う。またもや一人のランニングだけで追加のトライ。叶も猪のように決死のタックルを仕掛けるが、あっさりかわされてさらにトライ。観客も、あまりの岡部の美技にタメ息が出るばかりだ。

「何か策はないのか！」と詰め寄る扶桑メンバー達だが、叶自身が一番いきり立っている。司令塔がこれではどうしようもない。岡部を止めるため、今度は**扶桑のバックス全員で止めにかかった！**しかし、**その瞬間になって岡部は味方にパス**。あっさりトライを取られてしまった。
これが岡部の策だったのだ。
ジョン「最初は強引に一人でトライしたネ･･･それは、相手のマークを自分一人に引き付け、味方のマークを甘くする作戦だったネ･･･」
これを決められて、叶も普通の１対１マークに変更せざるを得なくなった。さらに、相変わらずの岡部の個人技も冴え、トライを献上する。

もうこのまま手も足も出ないのか。またもや岡部が叶に対してステップを切る！叶はもう涙目で岡部の姿もぼやけてしまっている。だが、**なぜか叶のやぶれかぶれのタックルがクリーンヒット！！**日本に帰国して以来、はじめてクリーンタックルを許した岡部はあっけにとられ、ノットリリースザボールの反則。

この反則のキックはノータッチになってしまうが、岡部以外の選手はレベルが低い久世沢。太陽の逆光で球を見失い、ルースボールにしてしまう。そこへ扶桑が殺到し、マイボールに。伊達が「岡部一人にええカッコさせてたまるけえ～～！！」と切れ込んでゲイン。伊達の悪癖である個人プレーかと一瞬思われたが、しっかりと味方にパスし、ネコがトライ。追撃の狼煙をあげた。

叶は反省している。**岡部の壮大すぎる夢に圧倒され、見事なテクニックに嫉妬し、そしてそれを勝手に SO 失格に結び付けて僻んでいたのだろうか･･･**と。
叶「少なくともおれはさっきまで、‘おれたちのラグビー’じゃなく‘おれのラグビー’をやっていた！！」

仕掛ける叶。クロスで伊達にパスとみせかけたその瞬間、

叶の目には「ここにトライしてくださいよ」とばかりにインゴールが光って見えた。そのまま、叶はパスをせず自分でかわしてトライ。
伊達「なんだァ！てめえこそ、岡部に対抗する気か！」
と伊達が詰め寄るが、叶はむしろ自分の今のプレーに呆然とし、
叶「岡部は、いつも今のおれのようなプレーをしているのだとしたら･･･あいつには、おれなんか足元にも及ばない･･･！」
叶は、**無意識の体の反応という体験を通じて、岡部の凄さを改めて感じた**ようだ。

さあ、扶桑も調子づいてきたが、岡部も負けてはいない。これまた個人技でパスダミーなどを駆使して、扶桑バックス陣を単独突破し、トライ。前半終了時点で、扶桑 12-36 久世沢だ。
この試合は、猛暑の中で行われている。観客さえも「日陰に入らないと日射病になる」と言っているほど。この中で岡部や叶は試合をしているのだ。

ハーフタイム中。
叶「あいつが飛びぬけてうまいから、それが目立ってワンマンプレーに見えるんだ。後半は、特別なサインが出ていない限り、みんな自分の判断で思い切ったプレーをするんだ！自分がいいと思ったプレーがチームプレーにつながるんだ！」

叶は、完全に考えを改めたようだ。

後半が始まった。相当な猛暑のため、扶桑も久世沢もノックオンなどのミスがみられ始めた。かなり双方バテているようだ。扶桑が、真木の 8 サイド攻撃！岡部を含んで数人を巻きこんでいった。結局パイルアップとなったが、この密集において岡部はケガをしたようだ。
岡部「な、なんともねえよ！それより FW！しっかりせんかァ！」
と言いつつも、**膝をつく岡部**。肋骨かその辺りがやられたようだ。
猛暑にあわせて、このケガによって判断力が鈍ってきた岡部。扶桑のバックスにもタックルを綺麗にもらうようになってしまう。だが、それでも孤軍奮闘する岡部。もはや、久世沢の他のメンバーは、岡部のフォローにもついていけないほどバテている。岡部も、疲れを隠せない。**本来なら最高のタッチキックになるところが、ギリギリ出ない。**
あまりの猛暑で扶桑もエグりまくりである。ゴジは、**球を持って走りながらゲロを吐く始末**。それも岡部が止めた。もはや岡部以外の久世沢は全く機能していない。
岡部「いい根性してるぜっ！！うちにもそれがあったらなっ！！」

ジョン「ひどい怪我なのに岡部がドクターを呼ばないのは、たとえ一分たりともロスタイムをつくらないためネ･･･ロスタイムが増えれば、それだけ試合時間ものびるネ･･･そうなるとバテ方のひどい久世沢がますます不利になるからヨ･･･」
接尾語がウザいが、そういうことのようだ。確かに、追い上げられているが、まだ久世沢がリードしているのだ。叶も岡部には感銘している。

試合も佳境に入ってきた。**岡部以外は完全にカカシと化した久世沢**。クマやブルの激しいヒットも岡部が受け止めざるを得ない。どんどん傷んでいく岡部。それでも一人で走り回る岡部。扶桑は瞬く間にトライを重ねて追い上げ、ついに逆転した。
ジョン「この大会が終わったら･･･岡部をニュージーランドへ連れて帰るヨ！！あれじゃあまりにも岡部がかわいそうヨ！！」

岡部がみせる闘志に観客も動かされ、**「岡部コール」が沸き起こった。**
天生「ラグビーの試合で個人コールが起きるのは･･･あんまり誉められたことやないんだが･･･」
しかし、それほどまでに岡部の奮闘ぶりが凄絶だったということだろう。
叶が球を取ると、

と、岡部に激しくヒットしてトドメを刺した。見上げる岡部に叶は続ける。
叶「日本代表になってオールブラックスと戦って勝つ･･･などという夢は、おまえにはセコすぎるぜ！どうせならオールブラックスを目指しなよ！！**日本代表になるのはこの俺！**」
世界の広さを知らない小童が、下手をすれば人の人生を狂わしかねない安易な提案をしたが、岡部は理解したようだ。だが実際、岡部はそれに値するプレイヤーなのだ。また、いつのまにか叶の夢も大きくなっていた。
ちなみにこの間に、**叶は球を味方に渡してちゃっかりトライを取らせている**。もはや、扶桑の勝ちはゆるぎない。

ラストワンプレー。岡部がキックオフで球を蹴り上げるも、さすがに彼も限界だ。よろめきながらタックルとは言えない形で、球をとった叶にもたれかかり、そのまま倒れ込んでしまった。レフェリーはまだプレーが切れていないので、ノーサイドにしようとしないが、
叶「**ロスタイムは一秒たりとないはずだっ！！さっさとノーサイドの笛を吹けえっ！！**」
という叶の**号泣しながらの一言**で、ノーサイドとなった。
ロスタイムがないのは岡部が頑張ったからである。扶桑 58-40 久世沢。

立ち上がる岡部。
岡部「また一からやり直しだ･･･ニュージーランドでな！そして、オールブラックスの SO になってみせるぜ！お前ら日本代表になれや。そしたらたまには遊んでやるぜ･･･世界最強のメンバーでな！」
と白鷺や叶に言った。

さて、扶桑は決勝進出を果たした。残る準決勝は堂園 vs 東光少年院だ。
扶桑 vs 久世沢の試合をみていたサブは、「堂園なんか目じゃねえ！」と言い放つ。
冴木監督（臨時少年院コーチ）「ますます倒しがいが出てきたぜ･･･叶よ！」